

職場訪問例会 移動例会

北海道開発局釧路開発建設部釧路港湾事務所 飯田計画・保全課長様

スライドを使用して、釧路港の概要について説明を頂きました。概要資料より抜粋して掲載します。

釧路港の歴史・・・明治42年釧路港修築工事開始、釧路築港事務所開設から今年で開港100年目となります。昭和44年西港区建設工事開始から40年となります。

西港区第1埠頭・・・木材チップの輸入、紙パルプの輸出入、RORO貨物等を中心に約840トンを取扱っている埠頭です。昭和50年に完成しました。

石炭・インドネシア等から年間80万トン18隻の大型船による輸送。木材チップ・アメリカ、ブラジル等から年間170万トン27隻の大型船による輸送。古紙・主に関東から年間90万トン。

地場の基幹産業を支える役割の釧路市の紙パルプ産業は、木材チップや古紙から、新聞用紙やダンボール原紙などの紙製品を年間100トン生産。移出として、ほぼ半数は関東、ほか関西、中部へも年間100万トン。紙製品の輸出はアジア各地へ年間1万トン。

安心して暮らせる地域を支える役割の石油製品は、東北海道で消費される灯油の9割以上が、釧路港から供給されています。道東51市町村のうち、石油製品の供給を釧路港に8割以上頼っている市町村は40市町村にもものぼります。

西港区第2埠頭・・・穀物等の輸入のほかRORO船による生乳の移出、古紙等RORO貨物の移入等約620万トンを取り扱っている埠頭です。昭和57年に完成しました。

安全・安心で質の高い食産業を支える役割 - 酪農業、東北海道からの本州向け生乳のうち6割を、釧路港の定期航路により輸送しています。飼料原料の供給を支えるため、大型外航船が月7回、小型内航船はほぼ毎日入港しています。

命と健康を支える役割 - 製薬・飲料産業、年間約1億本の点滴製剤が釧路港を通じて、全国の病院・患者のもとへ届けられています。年間1.5億本の清涼飲料水が釧路港を通じて、東日本一円へ届けられています。

西港区第3埠頭・・・製紙工場の石炭、肥料工場の化学肥料、木工場の原木の輸入、砂、砂利等の移出入等、約160万トンを取扱っている埠頭です。平成7年に完成しました。

西港区第4埠頭・・・1997年(平成9年)に着工し、2002年(平成14年)に一部供用が開始されました。道東初の-14m岸壁が完成し、5万DWT級の大型専用船による石炭の輸入が可能になりました。平成14年8月には韓国釜山港との国際コンテナ定期航路が開設され、-12m岸壁がコンテナバースとして利用されています。

外資コンテナ定期航路・・・平成14年8月31日、釧路港～釜山港(大韓民国)週1便

主要品目：新聞用紙、水産物(サケ等)(輸入)飼料、水産物、肥料、合板(輸入)

外資コンテナの荷役機械・・・タイヤマウント型ダブルリンク式ジブクレーンからガントリークレーン(H21.9.4供用開始)

安心して暮らせる地域を支える役割 - 電力・・・これまで釧路根室地域には火力発電所はありませんでしたが、卸発電事業が創出され、安定した電力の供給が可能になりました。燃料となる石炭は釧路港を通じて供給されています。

釧路港はエコポート(環境と共生する港湾)・・・エコポートは新しい海域自然環境の創出を目指し、その環境および生物生息域との共存が図れる港湾海域づくりを行う事業です。